

平成20年度  
水道局予算要求方針

【目次】

- 1 平成20年度水道局予算要求総括表・・・・・・・・・・ 1
- 2 平成20年度水道局経営方針・・・・・・・・・・ 2
- 3 重点的に取り組みを行う主なもの・・・・・・・・・・ 3  
（ハートフル北九州構築関係）
- 4 事務事業の見直し等・・・・・・・・・・ 4

# 1 平成20年度水道局予算要求総括表

## 【上水道事業会計】

平成20年度要求総額 39,731,480千円  
 (平成19年度予算額 35,064,600千円)  
 前年度比 +13.3%

### 《主な事業》

(単位：千円)

事業名	平成20年度 予算要求額A	平成19年度 予算額 B	増減 A-B
⑩アクアフレッシュ事業	35,000	0	35,000
貯水槽水道の管理強化事業	29,911	29,059	852
新若戸道路水道連絡管整備事業	300,000	200,000	100,000
配水管更新事業	2,500,000	2,500,000	0
木下～井手浦導水管の2条化整備事業	270,000	210,000	60,000
大谷配水池更新事業	112,000	121,000	△9,000
北部福岡緊急連絡管整備事業	3,483,459	1,949,998	1,533,461
水道用水供給事業	5,573,094	1,646,510	3,926,584

## 【工業用水道事業会計】

平成20年度要求総額 4,545,730千円  
 (平成19年度予算額 3,278,690千円)  
 前年度比 +38.6%

### 《主な事業》

(単位：千円)

事業名	平成20年度 予算要求額A	平成19年度 予算額 B	増減 A-B
⑩本城浄水場排水処理施設改築	94,080	0	94,080
⑩本城浄水場特高受配電設備更新	69,984	0	69,984

## 2 平成20年度 水道局経営方針

### 上水道事業

#### ○ 「水道事業中期経営計画」(平成18年度～22年度)に基づく施策の推進

「水道事業中期経営計画」に基づき、引き続き事業計画を実施するとともに計画目標達成に向けて、事業運営の効率化、水道施設の効率的な維持管理、民間的手法の活用などにより経営の効率化を進め、経費縮減に積極的に取り組みます。

平成22年度までは、この中期経営計画で定めた今後の経営方針に基づき、経営基盤の強化を図ります。

また、「今後の水道料金のあり方について」(平成19年1月基本計画検討委員会)の提言を踏まえ、水道料金体系の見直しについても、検討していきます。

#### 〈今後の経営方針〉

##### (1) 現行料金の維持のためのコスト縮減

一層の経営の効率化や業務の見直しによる委託化の推進など、コスト縮減に努め、現行料金を維持する。また、基本水量制及び逓増制のあり方など現行料金体系の見直しを行い、適正な料金制度の導入を目指します。

##### (2) 資金の確保

今後増大する水道施設の更新事業などに備えるほか、大規模災害、事故の緊急対策用として対処するため、平成22年度末で約50億円以上の資金を確保します。

また、平成18年度に設置した水道事業建設改良基金条例に基づき、基金を積み立てます。

##### (3) 企業債残高の縮減

後年度における負担を軽減するため、償還金の範囲内に企業債の発行を抑制しながら、平成22年度末で約30億円(平成17年度決算対比)、企業債残高を減少させます。(北部福岡緊急連絡管整備事業及び水道用水供給事業を除く)

### 工業用水道事業

#### ○ 健全経営の維持

工業用水道事業については、契約水量の伸びにより、給水収益の増加が見込まれ、必要な施設の維持・整備を計画的に実施する一方、新規需要の開拓など収入の確保に努めるとともに、より一層の経費節減に努めます。

また、市の施策である企業立地促進を側面から支援するため、料金の改定を検討しています。

#### 〈今後の経営方針〉

##### (1) コスト縮減の取り組みの推進

##### (2) 資金の確保

##### (3) 企業債残高の縮減

### 3 重点的に取り組みを行う主なもの

#### (1) お客さまが安心しておいしく飲める水道

安心しておいしく飲める水を供給するため、水源段階から浄化段階さらに給水段階に至る水質管理を強化し、蛇口での良質な水の確保に努めます。

##### ■ アクアフレッシュ事業

35百万円

小・中学校の児童・生徒が水道水のおいしさを実感できるよう小・中学校の直接給水への切り替えを促進します。

##### ■ 貯水槽水道の管理強化事業

29百万円

水道水の水質保全を図るため、貯水槽設置者に適正管理の指導・啓発を行います。

◇直結式給水の実施校 20校、貯水槽水道の指導率 87%

#### (2) いつでも安定して供給できる水道

事故や災害に強い水道を目指し、主要送水システムのループ化による基幹浄水場間のネットワーク強化や周辺自治体との相互水融通などにより、安定した給水体制を強化します。

同時に水道施設の更新は、事故時のバックアップと将来の水需要を考慮した適正な規模で進めます。

##### ■ 新若戸道路水道連絡管整備事業

300百万円

送水管のループ化によるライフラインの強化を図るため、新若戸道路整備に併せて水道連絡管を整備します。

##### ■ 配水管更新事業

2,500百万円

配水管のうち、主として昭和38年以前に布設されたものについては、経年劣化が著しいため、計画的に更新します。

##### ■ 木下～井手浦導水管2条化事業

270百万円

事故災害時に水源からの供給を維持するため、導水管の2条化によりバックアップ機能を持たせ、安定した水量の確保を図ります。

##### ■ 大谷配水池更新事業

112百万円

経年劣化が著しい基幹配水池である大谷配水池を全面更新し、安定給水の確保を図ります。

##### ■ 北部福岡緊急連絡管整備事業

3,483百万円

災害時など緊急時に本市と福岡都市圏で相互に水の融通を図るため、緊急連絡管(約50km)の整備を行います。

##### ■ 水道用水供給事業

5,573百万円

北部福岡緊急連絡管整備事業に併せ、水道用水供給事業の施設整備を推進します。

◇基幹浄水場間の送水システムのループ化による事故発生時のバックアップ人口 79万人(完成時)

◇北部福岡緊急連絡管の整備

◇経年劣化した配水管(対象配水管500km)の更新など

## 4 事務事業の見直し等

### (1) カ丸ダムから穴生浄水場への導水を活用した発電（継続事業）

穴生浄水場は、福岡県宮若市にあるカ丸ダムから原水を導水しています。その高低差による水力エネルギーを利用して水車発電機を回転させ、電力エネルギーを発生させます。この電力を浄水場内で送水ポンプなどを動かすために使用することにより、電力料金が削減できます。また、二酸化炭素を排出しない発電方法のため、環境保全を図ることができます。

○運転開始年月 平成19年4月